

佐々木あけみの一般質問

※地元図書館に、県議会の議事録があります。
※県議会のホームページに掲載されています。

一 知事の政治姿勢について

1. 安保法制

- ①国会の審議状況
- ②国民の理解や反応
- ③法制による今後の影響
- ④法制による岩国基地の今後の役割り・機能

二 教育問題について

- 1.教科書採択
- 2.主権者教育

高校生県議会

県内47名の高校生議員が
県議会の議場から主張します。

来年
1月20日
開催

三 地方創生と県政の諸課題について

1. 県政世論調査の結果

2. 住宅問題

- ①「山口県居住支援協議会」のとりくみ
- ②「山口県空き家対策連絡会」のとりくみ
- ③雇用促進住宅の活用

3. 女性活躍推進法

- ①法律に対する見解と働き方の改革
- ②県内中小企業に対する支援

4. 原発問題

- ①山口県が「原子力発電関係団体協議会」に加盟していることについて

● 一般質問の質疑から（一部抜粋） ●

一. 知事の政治姿勢について

1. 安保法制

佐々木

- ①審議時間が長かったことが、国民の理解が深まったことにはならない。むしろ、法案や答弁の矛盾が露呈し、衆参で200回以上の審議中断という異常事態になった。こうした審議状況をふり返ってみて、国民にていねいに説明されたと思うか。
- ②法制に対する国民の理解や反応について、どんな認識か。
- ③法制による今後の日本のあり方についての影響、および岩国基地の今後の役割りや機能についてどのように考えるか。

村岡知事

- ①国民の理解を得ていくためにも、会期を大幅に延長し、衆参で200時間をこえる審議が行われたと考える。
- ②政府は、これからもていねいに説明する努力を続けるといっており、私（知事）もそうしていただきたい。
- ③わが国の平和国家としてのあり方は、今後も変わることなく、国民の命と平和な暮らしを

守る観点から法律が運用されると考える。岩国基地は、国の専管事項である外交・防衛政策に関する事項であるため、県は見解を述べる立場ではない。

佐々木

知事は、政府の言っていることしか答弁しない。職員ではなく、政治家なのに、肉声が聞こえない。国連は「誰ひとり置き去りにしない」というスローガンのもとに2030年までの持続可能な開発目標を定めた。また、ノーベル賞を受賞した18歳のマウラさんは「子どもたちに銃をとらせたくなければ本を」と、教育の大切さを訴えている。グローバルといわれる一方で、こういった世界の動きがある。

知事は、日本が今後どのような生き方をすべきと思うか。

村岡知事

そういった国際環境の中での対応として、この法律が運用されることを期待している。国内では、地方創生を政府の最重要課題として、とりくんでいる。山口県も地方創生の総合戦略を策定したが、活力ある山口県となるよう全力でとりくむ。